

TOPICS
1社会課題解決や社会変革につながる
イノベーションの場 共創イノベーションラボ
(KIBINOVE) 完成記念式典を挙る

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、多くの産学連携や研究等に関する事業を進めています。その拠点として整備した「共創イノベーションラボ(KIBINOVE)」、6月13日に開催した完成記念式典についてご紹介します。



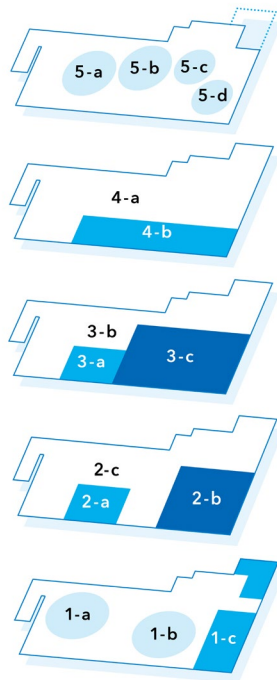
建物外観



1-b. レセプションフロア

3-c. ウェットラボ
(1室のみ什器付き)

周辺には多くの研究設備が存在
機器共用集約エリアへ



5F イノベーション創出フロア

アクティブ・セミナー・リフレッシュ・リセットの4エリアを緩やかにゾーニングし、イノベーションに繋がる新たな発想やアイデアの生まれる場を形成

4F コワーキングフロア

企業向けレンタルオフィス、企業や研究者が共通で利用できるワークスペースを設置

3F 基礎実験・実証実験フロア

企業向けレンタルラボ(ドライ・ウェット)を設置

2F 分析・実証研究フロア

パイロットプラントにも対応可能な企業向けレンタルラボ(ウェット)、クライオ電子トモグラフィーを配置

1F レセプションフロア

交流・歓談の場、会議室も複数用意

建物内での機能分化・連携

- ①産学官の多様な人々が出会う場、②実験・分析を行う場、
③出会いを通じてアイデアを創出する場という3つの役割を実現

津島キャンパス（北）抜粋

共創イノベーションラボ
津島キャンパス農作物
資源植物科学研究
所（倉敷）医療
鹿田キャンパス
/岡山大学病院惑星科学
惑星物質研究所
（三朝）学内集積によるイノベーション・
コモンズ（共創拠点）の完成

学内での機能分化・連携

【建物概要】

○鉄筋コンクリート造 地上5階建、
延床面積:2,156㎡

○総工事費:1,000,000千円

（文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」）

○什器整備費:49,126千円(J-PEAKS)

「地域中核・特色ある研究大学：岡山大学」が
地域社会や産業界との連携をより深め、共に
進むための新たなイノベーション・コモンズへ



意見交換の様子

(左より) 濱口首席サポーター
藤巻サポーター

(左より) 那須学長、文部科学省・池田課長、JSPS・清水部長、J-PEAKS・濱口首席サポーター、岡山大学研究協力会・中島会長、中国銀行・西明寺常務執行役員

阿部大臣の祝辞を
代読する文部科学
省・池田一郎課長

式典に先立ち、J-PEAKSに関係するサポーター、文部科学省、日本学術振興会の皆様と、執行部との意見交換を行いました。現在取り組んでいる人材育成や優秀な研究者確保施策、産業界との連携について議論が交わされました。

テープカットセレモニーは、阿部俊子文部科学大臣からの祝辞(代読：池田一郎文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課)から始まりました。

KIBINOVE開設を支援頂いた関係府省庁等の皆様、地元企業を代表して、岡山大学研究協力会の中島会長(ナカシマホールディングス代表取締役社長)、中国銀行の西明寺常務執行役員、那須学長により、テープカットを行いました。

式典は、本学放送文化部の岡川さんの司会により、那須学長の挨拶や建物や設置機器の説明等を行いました。

内覧では、リモートアクセスステーションにて惑星物質研究所(鳥取県)の機器との遠隔接続のデモや入居企業によるKIBINOVEを活用した取組のプレゼンなどが行われ、参加者が興味深そうに聞き入る様子が見られました。

佐藤副理事による
建物コンセプト説
明の様子クライオ電子トモ
グラフィの説明
を行う沈教授入居企業プレゼンの様子
(コワーキングスペース
前頁：4-b)内覧の様子(ラウンジエリア
(1-a)のシンボリックな壁にて)

集合写真(コネクスタジオのセミナースペース(5-b)にて)



参考：KIBINOVE利用予約等詳細 <https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/kigyo/kibinove/>

参考：KIBINOVE完成記念式典 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14333.html



○那須保友学長のコメント

完成記念式典にお越しいただいた文部科学省、J-PEAKSサポーター、日本学術振興会の皆さま、県内企業や大学関係者の皆さま、そしてJ-PEAKS採択校の皆さまに厚く御礼申し上げます。

KIBINOVEは、「吉備の国」の「辺り(あたり)」に位置するイノベーションの場として設立しました。KIBINOVEを活用し大学の機能強化を図るとともに、地域社会と連携しながら、持続可能な未来の実現に向けた取り組みを一層加速させていきます。どうぞ本学の取り組みにご期待ください。



TOPICS
2

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の令和7年度学内意見交換会を開催

大学院ヘルスシステム統合科学研究科で学内意見交換会を開催しました。昨年度の学内説明会に続き、今年度も学内意見交換会をすべての学部、研究科で開催します。

初回となる今回は、那須学長が職員を高度化することで教員中心の経営を脱し、プロが担う組織に変えていくことで、研究者の研究時間を確保することなどについて説明しました。

今後も全学をあげてJ-PEAKSの取り組みを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14285.html

TOPICS
3

ハーバード大学等アメリカの大学・研究機関に在籍する研究者への対応について

アメリカ・ハーバード大学(Harvard University)をはじめとする同国の大学・研究機関に対するアメリカ政府の対応について、本学は在籍中の研究者について以下の対応の準備を進めています。

- ① 総額4億円程度の経費を用意します(助教職で55人程度の雇用に相当)
- ② 厳格な研究IR等に基づく選考により優秀な研究者を対象に受け入れます
- ③ 本学の研究力・イノベーション創出強化等の点から「岡山大学長期ビジョン2050」と「岡山大学最重点研究分野」に大きく貢献することを重視します

研究ファーストの大学として、こののような事態に柔軟かつ迅速に対応できる大学経営を行うことができることが非常に重要だと考えています。今後も国のJ-RISE Initiativeとも連携し、わが国の研究力・イノベーション創出強化を進めます。

なお、学生についても別途対応を実施しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14284.html



参考：ハーバード大学に留学中の学部生・大学院生への対応について
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14278.html

TOPICS
4

地域中核・特色ある研究大学として経済を含めた安全保障に関わる研究活動の取り決めを整備・制定

本学は、6月11日の教育研究評議会での審議を経て、6月26日の役員会において「岡山大学における安全保障に関わる研究活動の取り決め」を決定しました。

本取り決めは、従来通り研究者の研究の自主性・自立性を尊重し、大学が研究者らの活動を守るという視点に立ち、①防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」に関する点、②わが国以外の国・地域等の軍事組織およびその所管官庁・ファンディングエージェンシー等が実施している競争的資金に関する点、③わが国を含めた国・地域等の軍事・実力組織およびその所管官庁・ファンディングエージェンシー等が提供している学術発表の場に関する点、④海外から受け入れる研究者、教員、留学生等に関する点、⑤共同研究等に関する点など、他機関よりも踏み込んで、一元化。研究大学としての責任を明確にしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14355.html



TOPICS
5

挑戦者たちがKIBINOVEに集結！「地域中核大学イノベーション創出会議」を開催

本学は、共創イノベーションラボ（KIBINOVE：きびのべ）にて、地域の未来共創を目指す「地域中核大学イノベーション創出会議」を開催。産業界・大学・行政の垣根を越えた議論が行われ、最前線の知見と実践が交わる貴重な機会となりました。

J-PEAKS事業において、シーズ・ニーズマッチングなどをいままで以上に精力的に取り組んでいます。今後も、ネットワークのハブとして、多様な主体との共創を通じた地域イノベーションの加速に取り組んでいきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14310.html

TOPICS
6

J-PEAKS戦略のさらなる推進に向けて 弘前大学と意見交換会を開催

本学は、J-PEAKS採択大学である弘前大学と、KIBINOVEの視察、J-PEAKS事業に関する意見交換会を開催しました。

意見交換会では、J-PEAKS戦略の推進に向け、研究支援人材（URA）の確保や育成、企業との連携強化など、多岐にわたるテーマについて情報共有を行いました。

令和6年度採択大学ともJ-PEAKS事業推進における課題や事例を共有し、新たな連携を実施できるように取り組んでいます。ぜひ両大学の取り組みにご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14295.html

TOPICS
7

本学が調査を実施 令和6年度「先端的サービスの開発・構築及び規制・制度改革に関する調査事業」の調査報告書（概要版）を内閣府が公表

本学は、令和6年度の内閣府事業「先端的サービスの開発・構築及び規制・制度改革に関する調査事業」に採択され、全世代に交付可能な「デジタル健康手帳」の実装に向けた調査を実施しました。この度、調査報告書（概要版）が内閣府より公表されました。

「吉備高原都市スーパーシティ構想」（安心・安全かつワクワクできる未来型シティの構築）の推進革新的事業連携型国家戦略特区（デジタル田園健康特区）として指定された岡山県吉備中央町とともに、協議会にリードアーキテクトとして参画しています。その一環で救急医療における救急救命士の役割拡大、母子健康情報のデジタル化、PHR基盤への医療・健康情報蓄積を中核テーマとする規制改革を進めてきました。

J-PEAKS事業において、上記の取り組みを推進し、DXを軸に産学官連携により誰一人取り残されないコミュニティやイノベーションを創生し、社会変革を実現します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14307.html

TOPICS

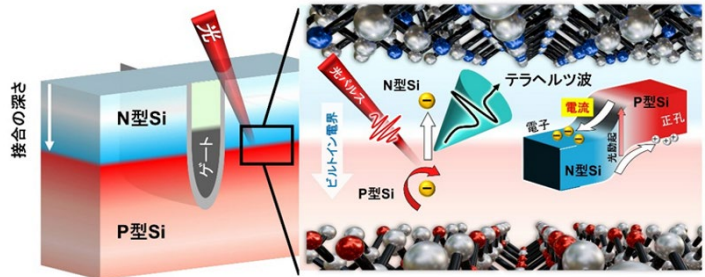
8

最先端半導体技術開発に新たな分析手法を提供

岡山大学、ライス大学、サムスン電子、日本サムスンによる国際研究グループは、シリコンウェハに埋め込まれたPN接合にフェムト秒レーザーを照射して生成されるテラヘルツ波を観察することで、非破壊かつ非接触で、簡単にウェハ内のPN接合の深さを推定する分析技術を発表しました。

PN接合から放射されるテラヘルツ波と光励起された電子の複雑な動きを関連づける単純化したモデルを提案し、電子の動きや内部電界などの情報を抽出でき、ウェハ表面近傍に浅く形成されたPN接合の深さをナノメートル分解能で定量的に推定することが可能になりました。

この技術は、三次元LSIなどの先進的な半導体デバイスの開発を支援する新技術で、半導体産業に大きな貢献が期待できます。今回の斗内政吉教授をはじめとした高等先鋭研究院の研究者らの活躍にご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1399.html



TOPICS

9

本学が参画する「瀬戸内スタートアップコンソーシアム」が内閣府「NEXTグローバル拠点都市」に選定

内閣府の「スタートアップ・エコシステム拠点都市」制度の第2期公募において、岡山市と愛媛県が連携し、岡山大学も参画している「瀬戸内スタートアップコンソーシアム」が、「NEXTグローバル拠点都市」に選定されました。

選定された拠点都市のスタートアップ等に対しては、政府や政府関係機関、民間サポーター等による集中支援が実施され、世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成を目指すことを目的としています。

豊富な研究・技術シーズ、起業支援体制、J-PEAKS事業において取り組んでいる人材育成機能などを生かして本コンソーシアムの中核的役割を担い、今後は圏域内外のスタートアップ・エコシステムとの連携やグローバル展開を見据えた取り組みを進めます。

瀬戸内スタートアップコンソーシアム

“実証フィールド『SETOUCHI』を活用した産業集積”

“瀬戸内スタートアップコンソーシアム”は、これまでに培ってきた支援体制と民間主体の先行的な取組を基盤に、広域的な連携をさらに深化させ、スタートアップの成長促進と地域経済の活性化を一層推進する。

・「BLAST SETOUCHI」等の民間主導の広域連携

・「SETOUCHI」の海外認知度、ブランド力を活用

愛媛 EGFコンソーシアム × 岡山イノベーションコンソーシアム

産業の特性

【愛媛】

・船用・海運関係

・海洋生物資源

・養殖業、水産加工業

・捕獲漁業、流通・小売業

・造船

・船舶関連機器

・船舶修理

・海上輸送サービス

・しまなみサイクリング

・観光資源

・民間企業

・金融機関

・大学・高等専門学校

・市・町・愛媛県

・海洋再生可能エネルギー

・洋上風力発電

・海洋エネルギー発電

・浮体式太陽光発電

・ブルーカーボン

【岡山】

・ヘルスケア産業…全国有数の先進医療機関の集積地

・農水産業…モモ、ブドウ等のフルーツ生産

・製造業…鉄鋼業、繊維工業

地元プレイヤーの特性を鑑み、成長可能性のある事業領域に注力（※右図参照）

コンソーシアム内での取組内容

・愛媛グローバル・フロンティア・プログラム

・えひめスタートアップ共創促進事業

・自治体オープンイノベーション公共調達事業

・スタートアップの成長プログラム実施

・各種ビジネスプランコンテストの開催

・グローバルイノベーション・チャレンジ・プログラム

・エゴシステムの土台を作る（アントレプレナーシップ人材育成等）

・ビジネスEHOME（愛媛大学）

・えひめベンチャー起業塾（松山大学）

・地方版未踏事業「LEADING EDGE 西国」

・岡山スタートアップアワード「IOSA」

・次世代起業家育成プログラム「飛行船」

「IOSA」

「飛行船」

「飛行船」

全体KPI	2024年度末	2027年度末	2029年度末
スタートアップ創出数（累計）	123社	190社	250社
J-Startup選定件数（累計） ※地方版含む	14社	21社	30社

KPI	2024年度末	2027年度末	2029年度末
新規事業の創出数（累計） ※愛媛ブルーエコノミー分科会	4件	15件	30件
スタートアップのEXIT（IPO・M&A）（累計） ※岡山イノベーション分科会	未計測	3件	5件

KPI	2024年度末	2027年度末	2029年度末
「アトツギ甲子園」ファイナリスト輩出（累計） ※岡山イノベーション分科会	4社	9社	14社



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14338.html

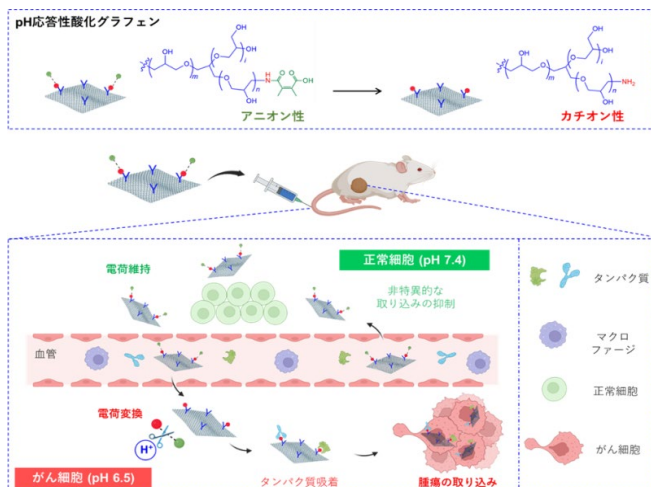
TOPICS
10

pH応答性ナノカーボンが切り拓くがん治療～バイオインターフェースの動的制御による高精度ドラッグデリバリー～

岡山大学学術研究院先鋭研究領域(異分野基礎科学研究所)のYajuan Zou助教と仁科勇太教授らの研究グループは、フランス国立科学研究センター(CNRS)ストラスブール大学のAlberto Bianco博士との国際共同研究により、pH応答性の電荷反転型表面を有するポリグリセロール修飾酸化グラフェンの開発に成功しました。

このナノ材料を用いて、生体内でのナノバイオインターフェース(5)の動的制御を実現し、がん細胞への取り込み効率を飛躍的に高めることに初めて成功しました。

J-PEAKS事業において、革新的な材料開発からイノベーション創出を実現します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1389.html



イチオシの研究設備

【小動物用X線CT

アロカ Latheta LCT-200】

本機は、主にラット・マウスを用いた動物実験での形態観察を目的とした断層撮影専用装置です。直径 120mmの固定具に收容可能であれば動物種は問いません。高空間分解能を活かし、生体内の各臓器、石灰化した血管、摘出標本などの撮影が可能です。

また、ソフトウェアの設定により呼吸や心拍に同期した撮影を行うことで、乱れのない鮮明な画像を得ることができます。さらに、ソフトウェアの解析機能により測定データに基づいた脂肪、骨、体積等の定量的解析が可能です。操作は簡単で、初回に利用説明を受けていただく

だけで手軽に使用できます。ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」の以下のURLから詳細をご確認いただけます。

J-PEAKSの取り組みでは、大型分析装置等の中国・四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しており、さまざまな取り組みを実施しています。

【管理者】

自然生命科学研究支援センター動物資源部門
平山晴子・藤井匡寛



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら: cfp@okayama-u.ac.jp
参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1248>

